

発達支援研究部門

1. 領域構成教職員・在職期間

発達支援研究部門長・教授	友田 明美	平成23年6月－
発達支援研究部門・教授（兼任）	大嶋 勇成	平成23年4月－
発達支援研究部門・客員教授	平谷 美智夫	平成26年4月－
発達支援研究部門・客員教授	清水 聡	平成24年12月－
発達支援研究部門・准教授	藤澤 隆史	平成25年4月（令和2年4月より現職）－
発達支援研究部門・特命講師	西谷 正太	令和元年6月（令和4年4月より現職）－令和6年3月
発達支援研究部門・特命助教	Natasha Yuriko dos Santos	令和3年5月－
発達支援研究部門・特命助教	平岡 大樹	令和4年7月－令和6年3月

2. 研究概要

研究概要

【発達支援研究部門】

発達支援研究部門は、次世代を担う子どものこころの健康を積極的に支援するために設立された部門であり、国内外の研究者と連携して以下のような研究を行っています。

- マルトリートメント予防のための分子生物・脳画像学研究と社会実装
子ども虐待・ネグレクトがヒトの脳に与える影響や、エビジェネティクスに関連する研究を行っています。また、子どもの感受性期や発達状況を予測するためのモデリングを特定し、その成果を地域に活用する取り組みも進めています（米国ハーバード大学、エモリー大学、デンバー大学、UCLAとの国際共同研究を展開中）。さらに、「マルトリ予防®」と「とも育て®」に関する研究や社会貢献活動も推進しています。
- 脳活動の可視化による発達障がいの新たな科学的評価法の研究開発と応用
注意欠如・多動症（ADHD）児や自閉スペクトラム症（ASD）児、愛着（アタッチメント）障害児の脳構造・機能の特徴を脳画像で可視化する評価法の研究開発を行っています（中国ハルビン医科大学との国際共同研究を遂行中）。
- 子どもの未来を拓くマルトリートメント予防システムのための養育者支援研究と社会実装
子ども虐待対策として、養育者のメンタルヘルス支援が重要です。科学的根拠に基づく養育者支援システムの構築やその成果の普及、専門家の育成を目指して、精神疾患予防を考慮したマルトリートメント予防モデルの研究を進めています。特に、養育者によるマルトリートメント予防のためのセルフモニタリングシステムの構築と、保育士の実行機能に関する脳画像研究に取り組んでいます。
- 子育て困難な養育者の支援・介入法確立のための脳画像エビゲノム解析研究

子どもへの虐待リスクを引き起こす子育て困難な養育者の脳やエビジェネティクスのメカニズムを解明し、虐待リスクを評価するためのバイオマーカーの開発を進めています。

- 発達障がい児の養育者を対象とした子育て支援プログラムに関する研究

発達障がい児の子育て支援プログラムが母親のストレスや親子関係の改善に与える影響、及びそのプログラムが親子の脳機能や脳構造に及ぼす効果を検証する研究を進めています。

キーワード

【発達支援研究部門】

子どものこころ、発達障害、愛着障害、マルトリートメント、養育者支援、エビジェネティクス

業績年の進捗状況

【発達支援研究部門】

- 子ども虐待が脳の構造、機能、愛着に及ぼす神経生物学的影響に関する成果の啓発
被虐待経験と脳の影響に関する研究は、ヒトの臨床データを基に、脳画像、エビゲノム、生理学、行動指標を用いて行われた、「子どもへの虐待が脳の構造や機能、愛着に与える神経生物学的影響」に関する研究結果の総括が、Eur. Arch. Psychiatry Clin. Neurosci.誌（Tomoda et al., Mar 11, 2024）に掲載された。また、科学的エビデンスに基づき、虐待が子どもの脳に及ぼす影響や、親が心を癒やすことで子どもの脳が変わる可能性について紹介した『子どもの脳を傷つける親たち』と『親の脳を癒せば子どもの脳は変わる』（NHK出版）は、一般読者から大きな反響を呼んだ。累計発行部数は約15万部に上り、前者は台湾、中国、韓国、ベトナムに、後者は韓国で翻訳版が刊行された。同様に、『実は危ない！その育児が子どもの脳を変形させる』（PHP研究所）も韓国で翻訳され、研究成果をアジア各地の社会に広く伝えた。
- マルトリ予防®のためのマルトリ・リスクのスクリーニング支援プログラム開発
従来の子育て支援機関における子ども虐待（マルトリ）リスクのスクリーニングは、主に自己記入式アンケートや支援者の面談で行われてきた。しかし、これらの手法は養育者と支援者の双方の視点でスクリーニングが見過ごされる可能性がある。この課題に対し、客観的なマルトリ・リスク評価ツールの必要性が求められていたが、これまでそのようなツールは存在しなかった。そこで、表情認知アルゴリズムを活用して、養育者のマルトリ・リスクを事前に検出し、早期の養育者支援と子ども虐待予防のための支援プログラムを開発し、特許を出願した。
特許名：マルトリ予防® のためのマルトリ・リスクのスクリーニング支援プログラム
出願日：令和6年2月7日 出願番号：特願2024-016968
出願人：国立大学法人 福井大学 発明者：友田明美、伊達岡五月、河田ナターシャ
- ブール検体法によるDNAメチル化アレキ解析の有用性の検証
DNAメチル化のマイクロアレイ（メチル化アレキ）は、がんや生活習慣病、心の問題の解明に役立つ手法であるが、解析費用が高いため、初めの一步が踏み出しにくい状況がある。そのため、費用対効果の高いブール検体法を評価した。DNA濃度定量法の更新を考慮してブール検体を作成する方法や、個別検体との違いについて論じ、デモ解析サイトも提供した。被虐待児と健常児のデータから、子ども虐待、愛着、トラウマ、レジリエンスに関するエビゲノムの違いに興味を持つ研究者にとって有益であると考えられる。AMED成育疾患克服等総合研究事業（R2-4）の成果として、被虐待児をエビゲノムの観点から評価し、これまで明確に見えなかった心の問題を小児精神神経学のエビデンスとして評価することで、子ども虐待の予防・介入法の開発に貢献した。本成果はClinical. Epigenetics誌（Nishitani et al., Aug 28, 2023）やEpigenomics誌の論説（Nishitani et al., Feb 5, 2024）に掲載され、前者は本学優秀論文賞を受賞した。
- 複雑性PTSD患者への簡易型トラウマ治療プロトコルによる治療効果を検証
複雑性PTSD患者に対する簡易型トラウマ治療プロトコル（TSP、地域こころの支援部門 杉山登志郎客員教授が開発）の効果を、本学医学部附属病院子どものこころ診療部や複数の医療機関と共同で検証した。その結果、顕著な改善が見られ、この治療法が有効である可能性が示唆され、本研究成果はJ. EMDR Pract. Res.誌（Wakusawa et al., Jun 26, 2023）に掲載された。
- 母親（初産婦）の乳児の泣き声に対する注意の偏りの縦断的变化に関する脳画像研究
初産母の乳児が泣くときに母親の注意がどのように変化するかを追跡する脳画像研究に関する研究を行った。親の育児適応に関する基礎的・応用的研究において極めて重要であることが示唆され、本研究の成果はFront. Behav. Neurosci.誌（Hiraoka et al., Sep 22, 2023）に掲載された。
- 非定型感覚調節と特性不安をもつ母親の安静時脳活動に関する研究
未就学児を養育中の健康な母親を対象に、養育ストレスと特性不安を持つ母親の安静時の脳活動に関する研究を行った。母親の不安が小脳後部の脳活動と非定型感覚調節特性に関連している本研究結果から、母親の感覚調節特性が養育ストレスにおける不安のリスクを予測する指標となり得ることが示唆され、本研究の成果はJournal of Child & Brain Development誌（Sakakibara et al., Nov 30, 2023）に掲載された。

特色等

【発達支援研究部門】

次世代を担う子どものこころの健康を積極的に支援するため、国内外の研究者と連携してマルトリートメント予防のための分子生物・脳画像学研究とその社会実装、子ども虐待・ネグレクトによる愛着障害脳の報酬系への影響や、感受性期の脳への影響、エビジェネティクスや養育者支援に関連する研究を行った。また、「マルトリ予防®」と「とも育て®」に関する研究と社会貢献を推進した。以上の他に脳活動の可視化による神経発達症の新たな科学的評価法の研究開発や神経発達症の養育者のためのアバタメントトレーニングプログラム研究にも取り組んだ。

本学の理念との関係

【発達支援研究部門】

MR I等の生体画像技術を基盤とする画像解析法、生体機能解析法等の開発、及びそれらを用いた生命現象の解明並びに臨床医学への応用に関する世界的に優れた研究を行い、本学の理念の具現化にあたる。

3. 研究実績

区分	総数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2017～2022年分	2023年分	2017～2022年分	2023年分

業績一覧

和文原著論文		0	0	—	—
英文論文	ファーストオーサー	0	7	0(0)	34,511(26,011)
	コレバオ ンディグ オーサー	0	9	0(0)	40,711(32,211)
	その他	0	5	0(0)	18,9(18,9)
	合計	0	14	0(0)	59,611(51,111)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

2398001

Hiraoka D*, Kawanami A, Sakurai K, Mori C.: Within-individual relationships between mother-to-infant bonding postpartum depressive symptoms: a longitudinal study., *Psychol. Med.*, 54(8), 1749-1757, 202406, DOI: 10.1017/S0033291723003707., #6.9

2398002

Kurata S, Nishitani S, Kawata NYS, Yao A, Fujisawa TX, Okazawa H, Tomoda A.: Diffusion tensor imaging of white-matter structural features of maltreating mothers and their associations with intergenerational chain of childhood abuse, *Sci. Rep.*, 14(1), 5671, 20240307, DOI: 10.1038/s41598-024-53666-0., #4.6

2398003

Sakakibara N, Makita K, Kasaba R, Fujisawa TX, Tomoda A.: Increased resting-state activity in the cerebellum with mothers having less adaptive sensory processing and trait anxiety., *Journal of Child & Brain Development*, 14(1), 20231130, DOI: 10.34572/jcbd.14.1_87., #3

2398004

Cai W, Mizuno Y, Tomoda A, Menon V: Bayesian dynamical system analysis of the effects of methylphenidate in children with attention-deficit/hyperactivity disorder: a randomized trial., *Neuropsychopharmacology*, 48(11), 1690-1698, 202310, DOI: 10.1038/s41386-023-01668-3, #7.6

2398005

Daiki Hiraoka, Kai Makita, Nobuko Sakakibara, Shigemi Morioka, Makoto Orisaka, Yoshio Yoshida, Akemi Tomoda: Longitudinal changes in attention bias to infant crying in primiparous mothers, *Behav. Neurosci.*, 17, 1192275, 20230922, DOI: 10.3389/fnbeh.2023.1192275, #3

2398006

Makita K, Yao A, Shimada K, Kasaba R, Fujisawa TX, Mizuno Y, Tomoda A: Neural and behavioral effects of parent training on emotion recognition in mothers rearing children with ADHD, *Brain Imaging Behav.*, 17(4), 436-449, 202308, DOI: 10.1007/s11682-023-00771-9., #3.2

2398007

Nishitani S, Fujisawa TX, Yao A, Takiguchi S, Tomoda A.: Evaluation of the pooled sample method in Infinium MethylationEPIC BeadChip array by comparison with individual samples., *Clin. Epigenetics*, 15(1), 138, 20230828, DOI: 10.1186/s13148-023-01544-3., #5.7

2398008

Makino T, Ide S, Shiino T, Hiraoka D, Ishibashi S, Suzuki F, Nishitani S.: Validity and reliability of the Japanese versions of the coronavirus anxiety scale for adolescents and obsession with COVID-19 scale for adolescents., *PeerJ*, 11, e15710, 20230809, DOI: 10.7717/peerj.15710, #2.7

2398009

Wakusawa K, Sugiyama T, Hotta H, Wada K, Suzuki F, Morimoto T, Shiino T, Tomoda A.: Triadic therapy based on somatic eye movement desensitization and reprocessing for posttraumatic stress disorder: A pilot randomized controlled study., *J. EMDR Pract. Res.*, 17(3), 159-170, 202307, DOI: 10.1891/EMDR-2023-0014., #1.4

2398010

Yamashita M, Kagitani-Shimono K, Hirano Y, Hamatani S, Nishitani S, Yao A, Kurata S, Kosaka H, Jung M, Yoshida T, Sasaki T, Matsumoto K, Kato Y, Nakanishi M, Tachibana M, Mohri I, Tsuchiya KJ, Tsujikawa T, Okazawa H, Shimizu E, Taniike M, Tomoda A, Mizuno Y*: Child Developmental MRI (CDM) project: protocol for a multi-centre, cross-sectional study on elucidating the pathophysiology of attention-deficit/hyperactivity disorder and autism spectrum disorder through a multi-dimensional approach., *BMJ Open*, 13(6), e070157, 20230623, DOI: 10.1136/bmjopen-2022-068547, #2.9

2398011

Murata E, Yoshizaki A, Fujisawa TX, Tachibana M, Taniike M, Mohri I*: What daily factors affect the sleep habits of Japanese toddlers?, *J. Clin. Sleep Med.*, 19(6), 1089-1101, 20230601, DOI: 10.5664/jcsm.10508., #4.3

2398012

Hiraoka D, Makita K, Hamatani S, Tomoda A, Mizuno Y: Effects of Prenatal Cannabis Exposure on Developmental Trajectory of Cognitive Ability and Brain Volumes in the Adolescent Brain Cognitive Development (ABCD) Study., *Dev. Cogn. Neurosci.*, 60, 101209, 202304, DOI: 10.1016/j.dcn.2023.101209., #5.811

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

2398013

Nishitani S, Smith AK, Tomoda A, Fujisawa TX.: Data science using human epigenome for predicting multifactorial diseases and symptoms., *Epigenomics*, 16(5), 273-276, 202403, DOI: 10.2217/epi-2023-0321, #3.8

2398014

Tomoda A*, Nishitani S, Takiguchi S, Fujisawa TX, Sugiyama T, Teicher MH.: The neurobiological effects of childhood maltreatment on brain structure, function, and attachment., *Euro Arch Psych Clin Neuro*, Online ahead of print, 20240311, DOI: 10.1007/s00406-024-01779-y., #4.7

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

2398015

Cai W, Mizuno Y, Tomoda A, V Menon.: Methylphenidate Normalizes Aberrant Latent State Dynamics in Children With ADHD., *Biol. Psychiatry*, 93, 20230501, DOI: 10.1016/j.biopsych.2023.02.294., #10.6

2398016

Mizuno Y, Yamashita M, Shimono KK, Hirano Y, Hamatani S, Nishitani S, Tomoda A.: Child Developmental MRI (CDM) Project: Protocol for a Study on Elucidating the Pathophysiology of Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder and Autism Spectrum Disorder Through a Multi-Institutional and Dimensional Approach., *Biol. Psychiatry*, 93, 20230501, DOI: 10.1016/j.biopsych.2023.02.260., #10.6

2398017

Hamatani S, Hiraoka D, Makita K, Tomoda A, Mizuno Y.: Longitudinal Impact of COVID-19 Pandemic on Mental Health of Children in the ABCD Study Cohort., *Biol. Psychiatry*, 93, 20230501, DOI: 10.1016/j.biopsych.2023.02.265., #10.6

2398018

Mizuno Y, Cai W, Supekar K, Makita K, Takiguchi S, Silk TJ, Tomoda A, Menon V.: The Effects of Methylphenidate on Spontaneous Fluctuations in Reward and Cognitive Control Networks in Children With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder -Randomized Controlled Studies in Two Independent Cohorts., *Biol. Psychiatry*, 93, 20230501, DOI: 10.1016/j.biopsych.2023.02.263., #10.6

(3) 和文：著書等

a. 著書

2398019

友田明美（朱蔓青 訳）：子どもの脳を傷つける親たち（簡体字版＝中国語），四川科学技術出版，20230601

b. 著書（分担執筆）

業績一覧

- 2398020** 友田明美：日本小児神経学会チック症診療ガイドライン策定WG：小児チック症診療ガイドライン，診断と治療社，20240209，978-4-7878-8132-8
- 2398021** 友田明美：小児の注意欠如・多動症（ADHD）：福井次矢、高木誠、小室一成：今日の治療指針2024年版―，医学書院，202401，978-4-260-05342-6
- 2398022** 友田明美：第4章 脳の発達と発達心理：加藤元博：小児科学 第11版，文光堂，30-45，20230412，978-4-8306-3046-0

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

- a. 原著論文（審査有）
- b. 原著論文（審査無）
- c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

2398023 友田明美：虐待（マルトリートメント）が子どもの脳に及ぼす影響，脳神経外科ジャーナル，32(6)，362-367，202306

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

2398024 Mizuno Y, Cai W, Supekar K, Makita K, Takiguchi S, Silk TJ, Tomoda A, Menon V.: The Effects of Methylphenidate on Spontaneous Fluctuations in Reward and Cognitive Control Networks in Children With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder –Randomized Controlled Studies in Two Independent Cohorts, 2023 SOBP Annual Meeting, San Diego, U.S.A., 20230427, Biol Psychiatry, 93(9 Supplement), S103, 20230501

2398025 Mizuno Y, Yamashita M, Shimono KK, Hirano Y, Hamatani S, Nishitani S, Tomoda A.: Child Developmental MRI (CDM) Project: Protocol for a Study on Elucidating the Pathophysiology of Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder and Autism Spectrum Disorder Through a Multi-Institutional and Dimensional Approach, 2023 SOBP Annual Meeting, San Diego, U.S.A., 20230427, Biol Psychiatry, 93(9 Supplement), S102, 20230501

2398026 Cai W, Mizuno Y, Tomoda A, V Menon.: Methylphenidate Normalizes Aberrant Latent State Dynamics in Children With ADHD., 2023 SOBP Annual Meeting, San Diego, U.S.A., 20230427, Biol Psychiatry, 93(9 Supplement), S115-S116, 20230501

2398027 Hamatani S, Hiraoka D, Makita K, Tomoda A, Mizuno Y.: Longitudinal Impact of COVID-19 Pandemic on Mental Health of Children in the ABCD Study Cohort., 2023 SOBP Annual Meeting, San Diego, U.S.A., 20230427, Biol Psychiatry, 93(9 Supplement), S104, 20230501

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

2398028 友田明美：マルトリートメント（子ども虐待）予防と家族支援 ～とも育てのすすめ～，第60回 日本小児外科学会学術集会，多職種連携のセッション2「児童虐待をめぐる諸問題」，大阪市，20230602

2398029 西谷正太、友田明美：被虐待児のエピゲノム，第60回 日本小児外科学会学術集会，シンポジウム18「神経発達症を科学する ―最新知見のupdate」，岡山市，20230527

2398030 友田明美：初期経験がつくる「こころ」と「脳」の発達および感受性期，第28回日本基礎理学療法学会学術大会，こころを見つめるサイエンス，広島市，20231202

c. 一般講演（口演）

2398031 平岡大樹：養育者の心理・行動・神経の個人内変化，日本心理学会第87回大会，ハイブリット開催（神戸市），20230915

d. 一般講演（ポスター）

2398032 松本一記、濱谷沙世、高橋純平、須藤千尋、牧野拓也、鈴木 太、小坂浩隆、新野青那、井階友貴、林 寛之、友田明美、清水栄司.: 通常治療と比較した強迫症のガイド付きインターネット認知行動療法の有効性：多施設ランダム化比較試験，第119回日本精神神経学会学術大会，関連学会優秀演題ポスター-3，日本不安症学会・日本うつ病学会，横浜市，20230623

2398033 山下雅俊、下野九理子、平野好幸、濱谷沙世、西谷正太、友田明美、水野賢史：子ども発達脳プロジェクト：多機関共同と多面的評価によるADHDとASDの病態解明とバイオマーカーの確立に向けて，第65回日本小児神経学会学術集会，岡山市，20230525

2398034 西谷正太、磯崎誠、矢尾明子、東野芳史、山内貴寛、木戸口正宗、川尻智士、常俊顕三、根石弘行、井本浩哉、有島英孝、小寺俊昭、藤澤隆史、野村貞宏、菊田健一郎、篠崎元、友田明美：脳、血液、唾液、頬粘膜上皮のゲノムワイドDNAメチル化の組織横断的なDNAメチル化の相関性，第46回日本神経科学学会大会，仙台市，20230803

2398035 王 佳、Natasha Kawata、友田明美：ASD幼児における脳白質発達に関する脳DTI画像研究，第26回日本ヒト脳機能マッピング学会，宇都宮市，20240223

2398036 高橋雄介、平岡大樹、野村理朗：急性心理社会的ストレスからの回復過程は一樣ではない唾液中コルチゾール濃度の潜在混合軌跡モデリングと子ども期逆境体験との関連，日本心理学会第87回大会，ハイブリット開催（神戸市），20230915

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

2398037

友田明美：子どもの脳を傷つけない子育て～マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～，岩手県情緒障がい教育研究会「講演会」，Web講演（豊能市），20230804

2398038

友田明美：子どもの脳を傷つけない子育て～マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～，神奈川県臨床整形外科医会 市民公開講座，横浜市，20230520

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	周産期うつ傾向の発生・継続に関する心理・遺伝・神経機構の解明	平岡 大樹		20220401-20250331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	妊娠中から産後のうつ症状の継続において乳児の泣き声が果たす役割の解明	平岡 大樹		20210401-20240331	¥1,560,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	保育士の実行機能から考える保育士配置基準の検討	矢尾 明子		20230401-20250331	¥3,900,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(B)	エビゲノム情報と脳画像に基づいた子どもの養育歴と社会認知発達 の推定モデリング	藤澤 隆史	友田 明美, 西谷 正太	20230401-20270331	¥6,370,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	A brain imaging study to investigate the neural correlates of brain structural and functional connectivity in relation auditory abilities in	Natasha Kawata		20220401-20240331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	Relationship between auditory measure and social scale, structural brain, and functional connectivity in children with PVA experience	Natasha Kawata		20230401-20260331	¥15,470,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	アプリを活用した養育者のマルトリートメント予防セルフモニタリングシステム構築	伊達岡 五月（和田五月）	Natasha Kawata, 友田 明美	20230401-20260331	¥1,560,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	アロベアレンティング状況が子の社会性発達および養育者のメンタルヘルスに及ぼす影響	藤澤 隆史		20180401-20240331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	挑戦的研究（萌芽）	ネグレクト環境が子どものこころに与える影響の客観的マーカーの開発研究	友田 明美		20210401-20240331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	過去の養育状況が子の認知・社会性発達に及ぼす影響とそのエビゲノム因子の同定	藤澤 隆史		20210401-20240331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	周産期うつ傾向の発生・継続に関する心理・遺伝・神経機構の解明	平岡 大樹		20220401-20250331	¥0

業績一覧

文部科学省科学研究費補助金	若手研究	妊娠中から産後のうつ症状の継続において乳児の泣き声が果たす役割の解明	平岡 大樹		20210401-20240331	¥1,560,000
文部科学省科学研究費補助金	挑戦的研究（萌芽）	ネグレクト環境が子どもに与える影響の客観的マーカーの開発研究	友田 明美		20210401-20240331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	A brain imaging study to investigate the neural correlates of brain structural and functional connectivity in relation auditory abilities in	Natasha Kawata		20220401-20240331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	Relationship between auditory measure and social scale, structural brain, and functional connectivity in children with PVA experience	Natasha Kawata		20230401-20260331	¥15,470,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究（C）	アロペアレンティング状況が子の社会性発達および養育者のメンタルヘルスに及ぼす影響	藤澤 隆史		20180401-20240331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究（B）	エビゲノム情報と脳画像に基づいた子どもの養育歴と社会認知発達の推定モデリング	藤澤 隆史	友田 明美, 西谷 正太	20230401-20270331	¥6,370,000
文部科学省科学研究費補助金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	過去の養育状況が子の認知・社会性発達に及ぼす影響とそのエビゲノム因子の同定	藤澤 隆史		20210401-20240331	¥0

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

(B) 奨学寄附金

受入件数	1
受入金額	¥200,000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本小児精神神経学会	認定医	友田 明美
Asian & Oceanian Child Neurology Association (AOCNA)	終身会員 (Life Member)	友田 明美
北米神経科学会	一般会員	友田 明美
International Brain Mapping & Intraoperative Surgical- Planning Society	Program committee board	友田 明美
日本小児神経学会	評議員	友田 明美
日本子ども虐待医学会	理事	友田 明美
米国児童青年精神医学会	一般会員	友田 明美
日本子ども虐待防止学会	一般会員	友田 明美
日本ADHD学会	一般会員	友田 明美
日本発達神経科学会	理事	友田 明美
日本児童青年精神医学会	一般会員	藤澤 隆史
日本臨床発達心理士会	一般会員	藤澤 隆史
日本神経科学学会	一般会員	藤澤 隆史
日本心理学会	一般会員	藤澤 隆史
日本社会心理学会	一般会員	藤澤 隆史
日本発達心理学会	一般会員	藤澤 隆史
日本心理学会	一般会員	平岡 大樹
日本社会心理学会	一般会員	平岡 大樹
日本発達心理学会	一般会員	平岡 大樹
Society for Research in Child Development	一般会員	平岡 大樹
日本教育心理学会	一般会員	平岡 大樹
日本赤ちゃん学会	一般会員	平岡 大樹

(C) 座長

国内学会（全国レベル）	学会名	氏名
-------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長（主査）・委員の別	氏名	査読編数
子どものこころと脳の発達	査読	委員	平岡 大樹	1
Frontiers in Behavioral Neuroscience	査読	委員	平岡 大樹	1
PSYCHOLOGIA	査読	委員	平岡 大樹	1
Frontiers in Psychology	査読	委員	平岡 大樹	1

業績一覧

子どものこころと脳の発達	査読	委員	平岡 大樹	1
Frontiers in Behavioral Neuroscience	査読	委員	平岡 大樹	1
PSYCHOLOGIA	査読	委員	平岡 大樹	1
Frontiers in Psychology	査読	委員	平岡 大樹	1
Plos One	査読	委員	友田 明美	1
Sci Rep	査読	委員	友田 明美	1
Brain Dev	査読	委員	友田 明美	1
European Journal of Psychotraumatology	査読	委員	藤澤 隆史	1
Plos One	査読	委員	友田 明美	1
Sci Rep	査読	委員	友田 明美	1
Brain Dev	査読	委員	友田 明美	1
European Journal of Psychotraumatology	査読	委員	藤澤 隆史	1

(E) その他

6. 産業・社会への貢献

(A) 国・地域等への貢献

(1) 審議会・委員会・公益法人・会社等への参加状況

区分	機関の名称等	委員会の名称等・役割	氏名	期間
その他	株式会社ベータトリップ	データ解析者		20230701-20240331

(2) 社会人等への貢献及び学校等との連携・協力による活動

区分	活動名・活動内容	主催者・対象者等	氏名
----	----------	----------	----

(B) 国際貢献

国際協力事業

活動名・活動内容	氏名	相手方機関名	役割	期間	活動国名
----------	----	--------	----	----	------

(C) その他業績

(D) 特記事項